

校内研だより

・発行者 山城理乃
・発行日 4月
・No. 1

授業像の共有（校長先生のモデル授業）



今年度初の校内研修は、校長先生によるモデル授業で授業像の共有をしました。

「深い学びとは」「対話的学びとは」「主体的学びとは」ということなのか先生方それぞれがそれぞれの学びの中で気づき、対話しわかったことがあります。それは、対話をすることで主体的になること。また、個人で「深い学び」の深さや基準が違うことです。例えば今回の授業では、6年Mさんにとって1年のHさんに説

明する中で、よりよい表現を探し自分自身の理解の深さを深めているようでした。また、対話の中で6年Sさんが「あっ！！海をみたこと無い人がこの詩をかいたんだよ。だから、お家の中で書いてるんだ。」と、『力強さが表現されている』と読み取った思いをもとに筆者の様子を想像しテキストには書かれていないSさんなりの深い学びをしていたように思えました。よって、児童一人一人「深い学び」が違い、それを見取ることはとても難しいことだと感じました。しかし、私たちも見取る目をきたえていきたいですね。また、なにより教師間でリフレクションでなんとなくだが授業像が見えてきたことが嬉しかったです。

校長先生のすご技の紹介

①ぐだぐだしない

子どもの返答に対して変に言葉を足さず、あっさり受け入れる。

②対話時間の切り方

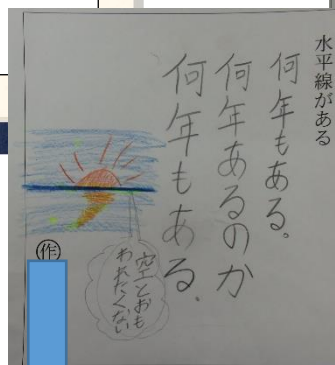
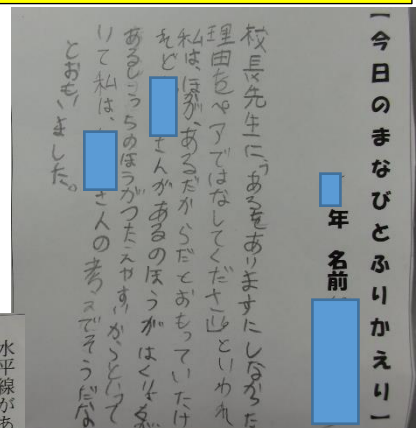
対話が滞ったらすぐに全体にもどす。

③指名

広がり予測した指名。また、そのあとの深まりを意識した指名。

振り返りからみられる

子ども学び



力強い水平線で「空と一緒にしないで」という思いがあるそうです。